

11月23日(日)

令和8年度  
外国人留学生入学試験問題

法学部

日本語小論文

— 注意事項 —

- 1 問題は3ページ、解答用紙は2枚である。
- 2 解答はすべて別紙解答用紙に横書きで記入すること。
- 3 試験時間は90分である。

N12A

省略 の箇所は、著作権の都合上省略しています。



問題 次の文章を読んで、問1から問4までの設問に答えなさい。

省 略

# 省 略

(倉沢康一郎『プレップ法と法学』にもとづく)

- 〈注〉 ※1 拘禁刑：従来の刑罰である懲役と禁錮を一本化した刑罰。刑法の改正により、2025（令和7）年6月1日から施行。
- ※2 御法度：法律や集団・コミュニティの規則又は社会慣習で禁止されている事項。
- ※3 他律的：自らではなく他から・外部からの働きかけによって動くさま。他に依存している様子。「自律的」に対する語。
- ※4 商行為：ここでは、営利目的で行う各種の取引行為（特に契約）を意味するものとする。

問1 近代法における「人」の定め方について、近代以前と比較して、250字程度で説明しなさい。

問2 身分について、契約ないし意思とのかかわりを含めて、350字程度で説明しなさい。

問3 商人について、前近代的なものとは近代以降のものを区別して、250字程度で説明しなさい。

問4 もし仮に、現在の商法において、「商人とは、国家の免許を得たうえで、自己の名をもって商行為をすることを業とする者をいう。」と定義されていた場合、商人は、前近代的なものとなるか。それとも、依然として、近代以降のものとなるか。その点について、自分の考えを、200字程度で説明しなさい。





